

ネットワークアンケート 53

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 糖尿病患者さんに対し、タバコの害についての情報提供や禁煙指導をされていますか？

「百害あって一利なし」と言われるタバコ。では、糖尿病患者さんの喫煙状況や禁煙指導の現状は？ 12年前にも同じテーマのアンケートをしたことがあるので、その時からの変化もみながら結果をまとめてみました。

[回答数：医療スタッフ109 (医師16、薬剤師10、看護師46、栄養士23、その他14。うち糖尿病療養指導士34、糖尿病認定看護師9)、患者さん416 (1型147、2型246、その他23。経口薬療法45%、インスリン療法・ポンプ療法59%、GLP-1受容体作動薬療法3%)。重複あり]

「ほぼ全ての患者さんに指導」と「対象を選んで指導」を合わせて7割以上という結果で、右ページに記した患者さんの回答とややギャップがみられます。このアンケートで両者の回答が一致しないのは‘よくあること’。ではあるものの、タバコの害悪については昨今、テレビや雑誌などを通じて大量の情報が流布されていますので、そのような一般的な話から一歩踏み込んだ情報を伝えないと、患者さんは「指導を受けた」と感じないのかもしれません。

Q. 糖尿病患者さんの喫煙習慣を把握されていますか？

ほぼすべての糖尿病患者さんの喫煙習慣を把握している 36%
4分の3程度の糖尿病患者さんの喫煙習慣を把握している 17%
半数程度の糖尿病患者さんの喫煙習慣を把握している 20%
あまり把握していない 13%
ほぼ全く把握していない 6%
わからない・その他 8%

禁煙指導に際しては、まず患者さんの喫煙状況を知る必要があります。では、その

自由記述から

通常の方以上に禁煙の意義があるのがDM(50代、医師)／糖尿病の治療をしてもタバコを吸うなら治療費の無駄(40代、医師)／療養指導士の認定条件に非喫煙者とするべき(40代、薬剤師・CDE)／禁煙により口さみしくなり間食が増え血糖が上がる患者が多い(50代、看護師・CDE)／禁煙を勧めるが「好きな食べ物を我慢する代わりに」という人もおり、糖尿病療養とともに禁煙は難しいと感じる(50代、看護師・CDE)

実態は？ということ、この質問をしたところ、結果は左記のとおり。まだ十分とは言えなさそうですが、前回の調査で「ほぼ全て把握している」のは18%でしたので、12年で倍増しています。

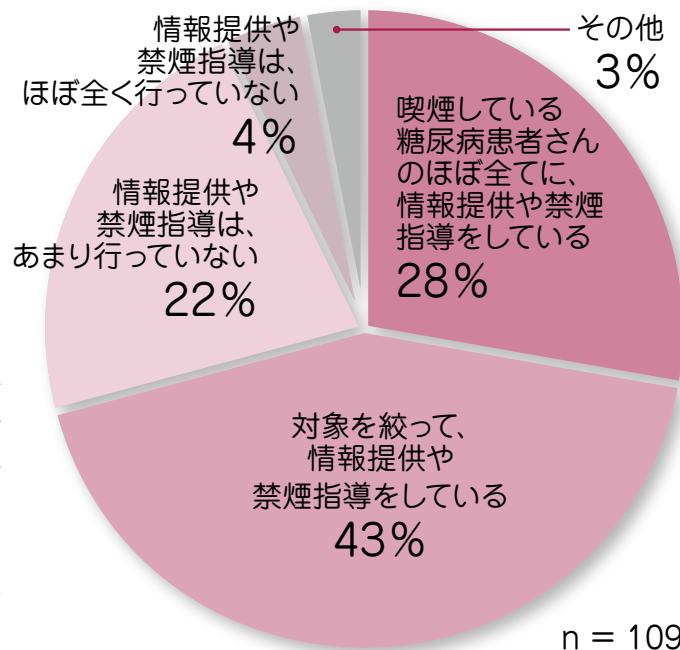
Q. 禁煙指導の際、どのようなゴールを設定しますか？

n=102
完全な禁煙をゴールとし、指導を続ける 28%
本数を減らす/電子タバコに変えるなどのハームリダクションをゴールとする 16%
完全な禁煙を目指すものの、無理な場合はハームリダクションで指導を終了 45%
わからない・その他 11%

「目標は完全禁煙、ただし困難であればハームリダクションもやむなし」が半数近くを占めたのは、現実的な結果のように思えます。電子タバコ(加熱タバコ)に変えることがどの程度のハームリダクションになるのか、エビデンスの蓄積が急がれます。

Q. 禁煙指導を受けた患者さんのうち、何割ぐらいが指導を守ると思いますか？

n=103
0~20%の患者さんが指導を守ると思う 46%
21~40%の患者さんが指導を守ると思う 27%
41~60%の患者さんが指導を守ると思う 17%
61~80%の患者さんが指導を守ると思う 5%
81~100%の患者さんが指導を守ると思う 0%
わからない 5%



禁煙指導をしたとしても徒労に終わる可能性が高いのではないかと諦観されているスタッフの方が少なからずいらっしゃるようです。最も悲観的な「0~20%が守ると思う」は前回の34%から12ポイント増加。12年間で喫煙率自体は減少してきている一方で、今も吸っている人は‘強者ぞろい’なのかもしれません。

Q. 現在、受動喫煙防止法案が議論されていますが、どのような内容の法律がよいと考えますか？

n=109
なるべく厳格なほうがよい 81%
なるべくゆるいほうがよい 6%
どちらとも言えない 11%
わからない 2%

8割以上がストイックな法律を望んでいるとのこと。医療スタッフとして当然かもしれません。

なお、スタッフご本人の喫煙状況を伺ったところ、非喫煙者80%、前喫煙者16%、現喫煙者4%でした (n=108)。